

遠隔授業配信センターでの実践 ～同時配信授業実施上の課題とその対応について～

遠隔授業配信センター 副校長 宮地 誠也

1 はじめに

令和2年度の配信センター開設以来、同時配信授業（以下「同時配信」という。）は毎年実施してきた。本稿では、受信校間の日程のズレにより授業が単独配信（以下同時配信に対して「単独授業」という。）となる同時配信実施上の課題と、それらに対する具体的な対応について記述する。

2 同時配信への対応

本年度、同時配信を実施した2校の特徴は、次のとおりである。

A校 6単位（数学Ⅱ 4単位・数学B 2単位）3学期制 定期試験5回

B校 7単位（数学Ⅱ 5単位・数学B 2単位）2学期制 定期試験4回

2校の定期試験の実施時期や行事予定が異なるため、授業に関して「月・週単位、時間単位、分単位」の3種のズレが生じる。それぞれのズレに対応するために様々な工夫を実践した。

(1) 月・週単位のズレ

ア ズレの具体的な内容：定期試験実施時期のズレ

両校の定期試験回数が異なり実施時期がズレているため、一方が定期試験中は、もう一方の単独授業が続く期間（以下、「ズレ期間」という。）がある。

イ 対応：年間指導計画の工夫

定期試験は、最初の5月と最後の3月は同じであるものの、7・10・12月はA校のみ、9・11月はB校のみ実施されるため、これらズレ期間ごとに6時間程度の単独授業を行う必要があった（表参照）。

そこで、年間指導計画に全10単元a～jを割り当てる際、ズレ期間以外は両校同じ単元を順に進めることとした。

この計画を立てる際、最も悩ましかったのはズレ期間で扱う単元の選定であった。ズレ期間は表のとおり2か月程度授業時期が離れている。時期が空いていても指導可能な単元について検討し、単元e「指数関数と対数関数」をズレ期間に扱うこととした。表の単元e1は「指数関数」、単元e2は「対数関数」をそれぞれ示しており、単元e2指導後に同単元について定期試験を実施した。

なお、定期試験回数が少ないB校については、12月下旬の単独授業の際、単元テストとして実施した。

<表>全10単元（a～j）の定期試験別範囲と実施月

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
A校		a・b		c・d		(e1)	f・g	(e2)	h・e			i・j
B校		a・b		(e1)		cd・f	(e2)	g・h	※e			i・j

凡例 □：定期試験 □：ズレ期間における単独授業 a～j：単元の種類

※B校では、12月に単元eについて単元テストを実施

ウ 所感

従来の学校では、一つの単元を時期を空けて扱うことはないため、最も困った点であった。配信センターの数学科教員で検討して案を作成し受信校と協議のうえ、このような計画により実践した。昨年度までの事例と比較すると、定期試験回数が異なる2校での同時配信は今年度が初めてであった。一年間実践して、この課題は指導計画への影響が非常に大きいと分かった。県教委において同時配信を調整する際、今後の参考にしていきたい。

(2) 時間単位のズレ

ア ズレの具体的な内容：学校行事による授業時数のズレ

一方の学校で学校行事がある日は、もう一方の単独授業となる。

例

授業	①	②	③	④	⑤
A校	同時配信	同時配信	単独授業	同時配信	同時配信
B校			(学校行事)		

イ 対応：「授業内容の工夫」

- ・同時配信となる授業①②④⑤では、教科書を順に進める。
- ・A校単独授業③では、①②の内容を踏まえた発展や復習（※）の内容を扱う。
※が難しい場合は、共通テスト問題や先の授業で扱う内容のガイダンス等を扱う。
- ・単独授業の日は、対面授業（2単位以上の科目2回、1単位の科目1回）の候補日になる。

ウ 所感

従来の学校では、2講座を同時に授業することはないため同じ事象は起こりえないが、類似事象はある。1組と2組の同じ科目を担当している場合、祝日や学校行事により1組の方が2組より授業時数が多くなることは、どの学校でもよく起こることである。したがって、この課題自体には大きな負担は感じなかった。

ただし、基本から発展までを網羅したデータベースから問題プリントを容易に作成できるアプリがある数学科の特性が大きく、他教科では負担があることが考えられる。

(3) 分単位のズレ

ア ズレの具体的な内容：1校のみ45分授業等の日に、授業時間のズレ

例 A校のみが45分授業の場合 ①A校単独 ②同時配信 ③B校単独の3場面

場面	①	②	③
A校	単独授業	同時配信	
B校			単独授業

場面別時間配分…2限：「①5分②40分③10分」、4限：「①20分②25分③25分」等

イ 対応：「授業展開の工夫」

- ・【1日のみの場合】 ①前時の復習、②説明・演習、③復習・発展
- ・【2日間続く場合】 1日①前時の復習、②説明・演習1、③演習1解説
2日①演習1解説、②説明・演習2、③復習・発展

ウ 所感

令和3年度の配信センター実践報告にも上のような授業展開の工夫の記述とともに、「授業進度に遅れが生じることは否めない」ため、「学校行事のすり合わせ（中略）の取組が必要」とあり、短縮授業の日数をできるだけ少なくするよう各校にお願いしてきた。今年度の授業日において、短縮授業はA校が21回、一方B校が0回と大きな差があったため授業進度に遅れが生じた。

3 おわりに

同時配信は2校でも難しさが伴い、3校ならばさらに複雑化することは明白であると分かった。

以下、難しさを下げる方法について考察する。配信センターのユニークな点として、各校の日程を俯瞰的かつ詳細に把握でき、学校行事や短縮授業の日数が、学校により様々であることがよく分かる。遠隔授業は時間割変更による補充が難しいため、授業展開や内容の工夫が各教科においてたびたび検討されるとともに、「各校行事予定の共通化は可能か」と話題に上ることがあった。

改めて表を見ると、5月と3月の定期試験時期は同じである。これは、それぞれ高知県高等学校体育大会と卒業式が共通化されていることによるものである。

本県では県教委が同時配信のために各校と調整し、遠隔授業に係る教育課程・校時程・教科書の共通化が進められてきた。また学校（生徒）のニーズにより遠隔授業の開講講座は毎年度変わり、同時配信校の組合せも年度により異なる。これらを踏まえると、全受信校と配信センターで一つの高等学校であるかのような形が望ましく、全受信校の行事予定（定期試験実施時期・学校行事・短縮授業）のある程度の共通化について、今後、県教委に検討いただけるとありがたい。